南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第43集

山梨県南アルプス市

平成 25 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

２０１５．３

南アルプス市教育委員会

TRIAL EXCAVATION REPORT OF BURIED CULTURAL PROPERTIES, 2014

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第四三集　平成二五年度埋蔵文化財試掘調査報告書　二〇一五・三　南アルプス市教育委員会

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第43集

山梨県南アルプス市

平成25年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

２０１５．３
南アルプス市教育委員会

TRIAL EXCAVATION REPORT OF BURIED CULTURAL PROPERTIES, 2014

例　　言

1．本書は山梨県南アルプス市において平成 25 年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。

2．本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。

3．調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。

4．本書の執筆、編集は斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一が行った。

5．整理作業には、加藤由利子、小林素子、桜井理恵、桜本みなみ、塩澤宏紀、高畑美和、穂坂美佐子、山路宏美が参加した。

6．本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。

7．試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。（敬称略・五十音順）

公益財団法人山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

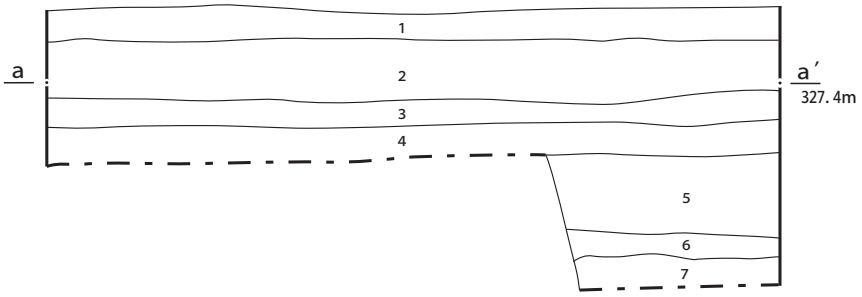
凡　　例

1．遺構図の縮尺はそれぞれ図に明記した。遺物実測図の縮尺は以下の通りである。
　土器・・・・・1/ 3

2．トレンチ配置図および遺構図中で使用したスクリーントーンはそれぞれ図版中に示したが、原則は以下の通りである。

平面図　試掘坑　未発掘の遺構　焼土

3．遺構の断面図、基本層序図における「327.4m」等の数値は標高を表す。



目　　次

例　言

凡　例

目　次

第Ⅰ章　平成25年度試掘調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1．南アルプス市概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2．調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第Ⅱ章　平成25年度遺跡試掘調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

1．赤面Ｂ遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2．野牛島・石橋遺跡、野牛島・大塚遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

3．坂ノ上姥神遺跡第２地点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

4．坂ノ上姥神遺跡第５地点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

5．東出口遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

6．寺部村附第６遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

第Ⅰ章　平成 25 年度試掘調査概要

1．南アルプス市概要

平成 15 年 4 月 1 日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の 4 町 2 村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06㎢、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳（3,193 m）をはじめ、間ノ岳（3,189m）、仙丈ケ岳（3,033m）、鳳凰三山など 3,000 m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約 73％を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勅使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2．調査概要

平成 25 年度（2013）の日本経済は、前年度の 12 月から進められた大胆な金融緩和や機動的な財政出動が本格化し、さらに平成 26 年 4 月 1 日で消費税率が 5 ％から 8 ％に引き上げられたことから、税率引き上げ前の開発行為が増加した。開発行為件数は、昨年度 44 件に対し平成 25 年度が 63 件と一気に 19 件増加している（第 3 表、グラフ 1 ）。それに対し、平成 25 年度の試掘調査は総数 21 件を数え、前年度と比べほぼ横ばいである（第 1 ・ 2 表）。

調査原因を公共事業、民間事業別で見ると、公共事業に対する試掘の割合は、平成 15 ～ 17 年度までは約 11 ～ 15％であったが、平成 18 年度を境に増加に転じ、平成 20・21 年度には 30 ～ 34％ま

調査原因		15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	合計
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	5	2	0	1	3	35
	学校	2	0	1	2	1	1	4	0	1	0	0	12
	その他の公共施設	2	1	4	0	2	3	0	5	1	3	2	23
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	小　計	**7**	**4**	**8**	**9**	**7**	**10**	**9**	**7**	**2**	**4**	**5**	**72**
	公共事業の割合 (％)	**14.9**	**11.8**	**14.8**	**23.7**	**29.2**	**34.5**	**30.0**	**20.0**	**9.1**	**20.0**	**23.8**	**20.3**
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	5	9	3	0	0	44
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	5	6	5	2	3	48
	工場	0	2	4	3	1	2	1	1	2	1	0	17
	店舗	8	3	3	1	1	0	3	0	3	2	2	26
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	5	8	5	8	8	97
	倉庫	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	1	1	0	0	0	12
	その他	1	3	3	2	0	4	1	3	2	3	3	25
	小　計	**40**	**30**	**46**	**29**	**17**	**19**	**21**	**28**	**20**	**16**	**16**	**282**
合　計		**47**	**34**	**54**	**38**	**24**	**29**	**30**	**35**	**22**	**20**	**21**	**354**

第 1 表　平成 15 ～ 25 年度試掘調査原因一覧

第２表　平成 25 年度試掘調査一覧

No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	トレンチ数	遺　構	遺物	調査期間	調査原因
1	上ノ平遺跡	湯沢地内	15,000	9.15	1	なし	なし	2013 年 4 月 16 日	農村地域活性化農道
2	赤面Ｂ遺跡	沢登 743	44	11.14	1	土坑	なし	2013 年 4 月 23 日	防火水槽
3	小笠原 102-1 他	小笠原 102-1 他	422.41	10.5	1	なし	なし	2013 年 4 月 24 日	集合住宅
4	上今井 674 他	上今井 674 他	3,246	12.48	2	なし	なし	2013 年 5 月 13 日	宅地造成（分譲住宅）
5	大新居Ｄ遺跡	桃園 1064-1 他	2,929	7	1	なし	なし	2013 年 5 月 16 日	店舗
6	沢登 266 他	沢登 266 他	849	20	2	なし	なし	2013 年 6 月 6 日	宅地造成（分譲住宅）
7	西南湖 738 他	西南湖 738 他	3,345	4.9	2	なし	なし	2013 年 7 月 24 日	南湖保育所建設
8	八田畑Ａ遺跡	小笠原 1328-1 他	1,415	5.76	1	なし	なし	2013 年 7 月 25 日	福祉施設建設
9	野牛島・石橋遺跡、野牛島・大塚遺跡	野牛島 2695-1 他	2,756	58.6	6	竪穴建物、溝状遺構、土坑	かわらけ、鍋	2013 年 7 月 29 ～ 8 月 1 日	宅地造成（分譲住宅）
10	下今諏訪 287-1	下今諏訪 287-1	894	10.21	2	なし	土師器	2013 年 8 月 12 日	集合住宅
11	吉田 943-6 他	吉田 943-6 他	2,809.29	24.8	3	溝状遺構？	なし	2013 年 8 月 21、22 日	宅地造成（分譲住宅）
12	山寺 1062-1	山寺 1026-1	1,164	6.75	1	なし	なし	2013 年 8 月 26 日	宅地造成（分譲住宅）
13	坂ノ上姥神遺跡第 2 地点	徳永 1719-1	818.04	15.5	1	竪穴建物	土師器	2013 年 9 月 27 日	私立小、中学校体育館建設
14	坂ノ上姥神遺跡第 5 地点	徳永 1722	492	22.17	2	竪穴建物、溝状遺構、土坑	土師器、灰釉陶器	2013 年 10 月 8 日	復元竪穴式住居
15	八幡第 1 遺跡	鏡中条 297-3 他	2,006	8.05	3	なし	なし	2013 年 10 月 15 日	店舗
16	東出口遺跡	下宮地 626-1 他	4897.75	46.56	8	竪穴建物、土坑	羽釜、土師器	2013 年 10 月 21 ～ 29 日、2014 年 1 月 10 ～ 18 日	宅地造成（分譲住宅）
17	加賀美条里遺構	藤田 267 他	2,136	20	3	なし	なし	2013 年 12 月 13 日	宅地造成（分譲住宅）
18	中西第 4 遺跡	鏡中条 1303	1,034	30.5	2	なし	なし	2014 年 3 月 7 日	集合住宅
19	永面Ｂ遺跡	沢登 98 他	3,110	63	6	溝状遺構	なし	2014 年 3 月 20 ～ 26 日	白根櫛形線
20	川上 527-1	川上 527-1	1,659	15.75	2	なし	なし	2014 年 3 月 25 日	宅地造成（分譲住宅）
21	寺部村附第 6 遺跡	寺部 1859-1 他	650	64.5	6	溝状遺構、土坑	土師器、灰釉陶器	2014 年 3 月 26 ～ 28 日	市道若草 1 号線

で増加、しかし平成 22 年度以降は 24% 以下が続いている。平成 21 年度までは災害復旧などの公共事業による緊急経済対策が図られ、その結果比率が高まったと考えられるが、市全体での財政再建に取り組む中、公共事業を抑制せざるをえない状況を示している。

開発行為における用途別で見ると、宅地造成（分譲住宅）が８件、集合住宅が３件を数え、例年どおり住宅にかかわる調査原因の件数が多い。上述した消費税率引き上げに伴い、住宅の駆け込み需要が増加し、宅地造成（分譲住宅）の開発が積極的に進められた結果、第Ⅱ章で報告する６遺跡の内、宅地造成（分譲住宅）に伴って試掘調査された野牛島・石橋遺跡（野牛島・大塚遺跡も対象範囲。以下省略）、東出口遺跡については、平成 25 年度中に本調査が実施されている。

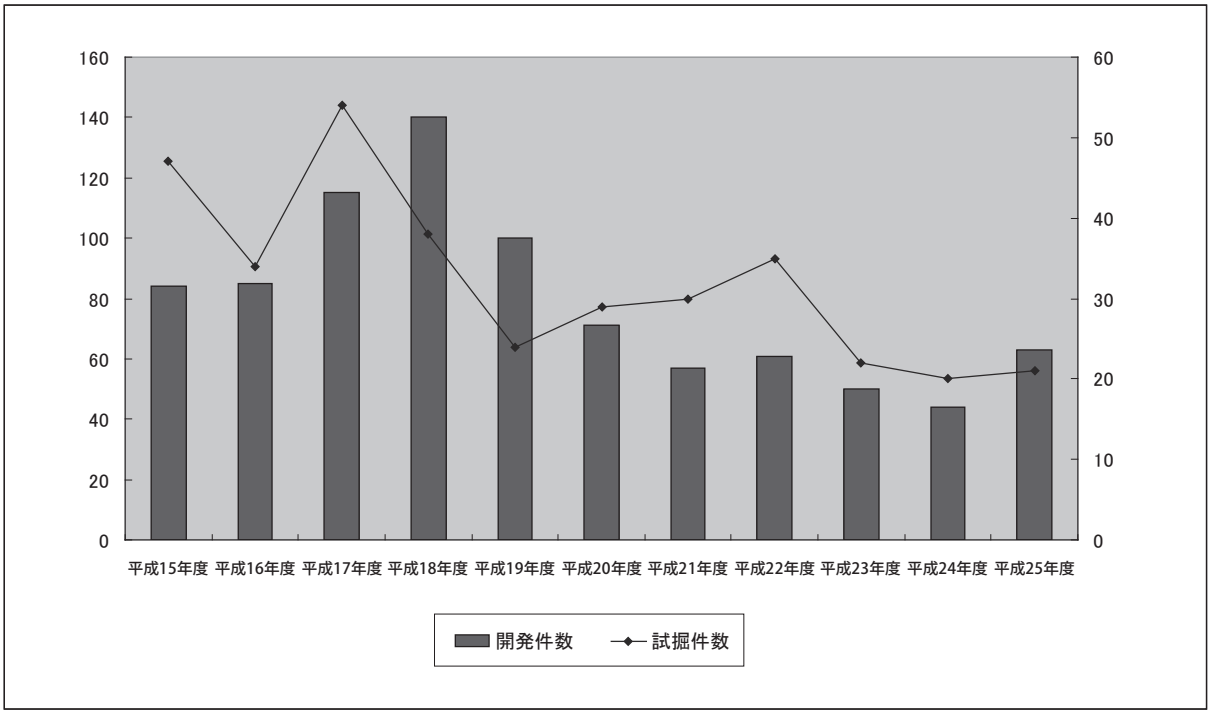
本年度の主な調査結果を外観すると、野牛島・石橋遺跡では中世の遺構とともにこれまで発見されていなかった奈良・平安時代の竪穴建物が発見され、能蔵池周辺の集落変遷を把握する上で新たな知見が得られた。坂ノ上姥神遺跡第５地点では、近接した第１・第２トレンチで３軒の竪穴建物が検出され、改めて御勅使川扇状地扇端部における遺構の分布密度が高いことが確認された。東出口遺跡は平成 18 年に発掘調査が行われ、約 933 ㎡の調査範囲の中で、古代を中心とした竪穴建物 34 軒が密集して検出され、大井郷の中心地域である可能性が指摘されている。今回調査された地点はその南側であり、多数の遺構の検出が予想されたが、検出遺構数が少なく、集落の南限が確認されたと推測されている。一方寺部村附第６遺跡では調査区北半で御勅使川の洪水流による砂礫層が堆積しており、南半で古墳時代前期および平安時代後半の遺構・遺物が検出された。南側の新山梨環状道路で調査された遺跡の北限が

試掘調査で確認されたことになる。

以上の結果は、小規模な調査範囲の試掘調査であっても、集落全体の範囲を把握する上で貴重なデータや新たな知見が得られた事例である。試掘調査後、本調査にいたるケースが増加しており、適切に文化財を保護し、工事・開発と円滑な調整を図るためにも、綿密な試掘調査が求められている。試掘調査の積み重ねと調査結果のデータ分析が、埋蔵文化財保護にとっての基盤であり、開発行為が増加する今日、ますますその重要性は高まっていると考えられる。

年度	開発件数	試掘件数
平成 15 年度	84	47
平成 16 年度	85	34
平成 17 年度	115	54
平成 18 年度	140	38
平成 19 年度	100	24
平成 20 年度	71	29
平成 21 年度	57	30
平成 22 年度	61	35
平成 23 年度	50	22
平成 24 年度	44	20
平成 25 年度	63	21
合計	870	354

第３表　年度別開発行為件数および試掘件数



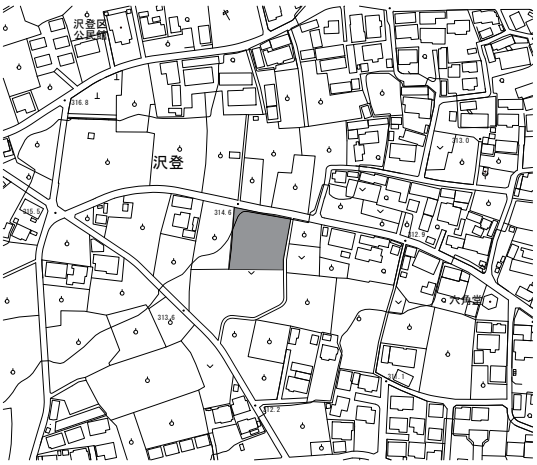
グラフ１　年度別開発行為件数および試掘件数

第１図　試掘調査地点位置図（1/50,000）

第Ⅱ章　平成 25 年度遺跡試掘調査概要

１．赤面Ｂ遺跡

調査地　　沢登 743
調査原因　防火水槽（平成 24 年度は公会堂建設）
調査期間　平成 25 年４月 23 日
（平成 24 年７月３日～平成 25 年３月４日）
対象／調査面積　44 ㎡／ 11.14 ㎡
（合計 1,678 ㎡／ 142.27 ㎡）



第１－１図　調査地位置図（1/5,000）

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地の扇央部に位置する。本地点の南約 300 ｍの地点には赤面Ｃ遺跡があり、過去に道路建設に伴って弥生時代から古墳時代初頭の竪穴建物跡が検出されている。さらに南東には十五所遺跡、豊小学校遺跡など、同じ扇央部から扇端部にかけて立地する、弥生時代から平安時代にかけての集落の様相が判明している。扇端部から徐々に扇央部にかけて開拓し続けた先人の暮らしがみえてきた地域である。

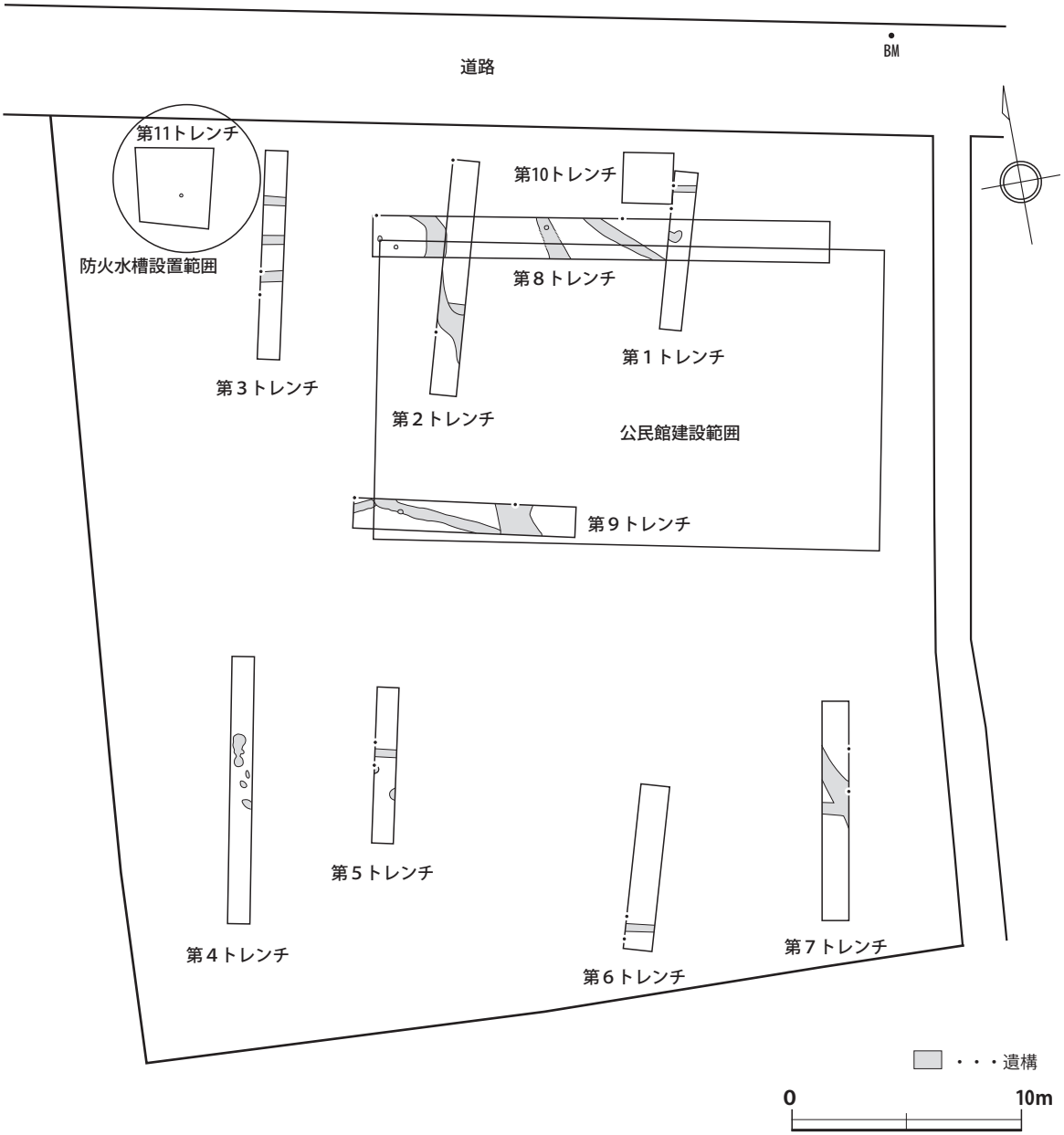
本試掘調査は沢登区公会堂の建設予定地内に計画された防火水槽の設置工事に伴うもので、それに先立ち、平成 24 年度には、同じ敷地内において、公会堂建設工事に伴う試掘調査を実施している。ここではその両方の調査成果について報告するものである。

調査の経緯は、平成 25 年７月に敷地全体に試掘溝を設定して調査を実施し、その結果遺構が確認され、協議のうえ遺構を保護する方針で建設計画が進められた。基礎の計画が確定したところでその範囲における遺構の有無を確認するために再度試掘調査を実施し、一部検出された遺構については記録保存を行った。平成 25 年度に入り防火水槽の計画範囲において試掘調査を実施した。設定したトレンチの番号は通し番号で表記している。

発見された遺構と遺物

全体を通して地形の傾斜とほぼ同じ方向で流路跡とみられる砂礫層及びその範囲が確認された。また、東西方向の溝状の痕跡も数条検出された。第４トレンチでは焼土が集中する範囲も検出されたが現地保存できている。計画建物のラップル基礎が打設される範囲（第８トレンチと第９トレンチ）において記録保存が必要とされたのは溝状遺構３条と、土坑４基であり、また、防火水槽設置範囲（第 11 トレンチ）においては土坑１基を検出しており、狭小且つ軽微な内容でもあったためその場において最低限の記録を実施している。

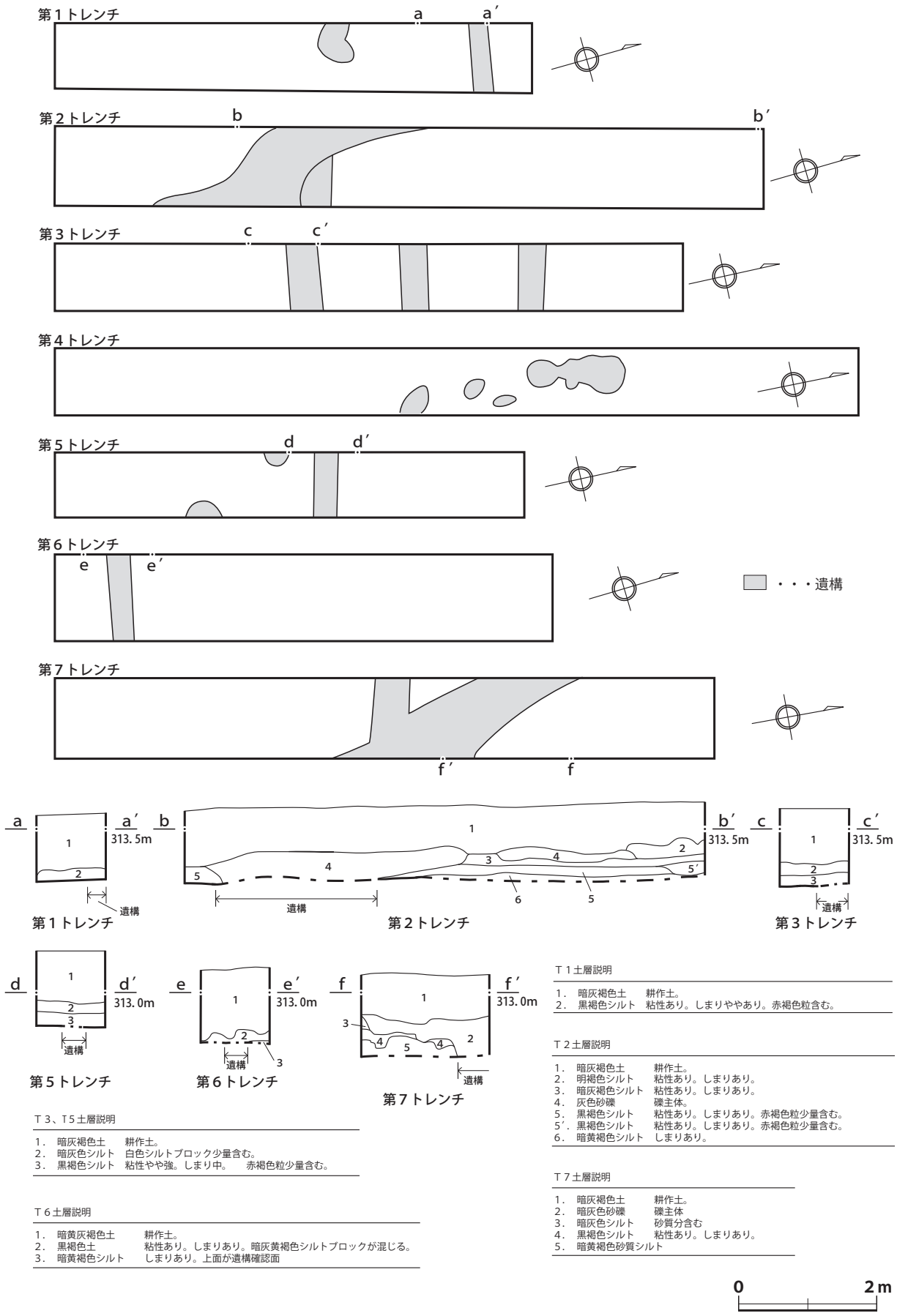
遺物は土師質土器片数点が出土したものの図示し得るものはなかった。



第１‐２図　トレンチ配置図（1/300）

第１トレンチおよび調査風景（北東から）

第 11 トレンチ掘削風景（北西から）



Ｔ１土層説明

1．	暗灰褐色土	耕作土。
2．	黒褐色シルト	粘性あり。しまりややあり。赤褐色粒含む。

Ｔ２土層説明

1．	暗灰褐色土	耕作土。
2．	明褐色シルト	粘性あり。しまりあり。
3．	暗灰褐色シルト	粘性あり。しまりあり。
4．	灰色砂礫	礫主体。
5．	黒褐色シルト	粘性あり。しまりあり。赤褐色粒少量含む。
5′．	黒褐色シルト	粘性あり。しまりあり。赤褐色粒少量含む。
6．	暗黄褐色シルト	しまりあり。

Ｔ３、Ｔ５土層説明

1．	暗灰褐色土	耕作土。
2．	暗灰色シルト	白色シルトブロック少量含む。
3．	黒褐色シルト	粘性やや強。しまり中。　赤褐色粒少量含む。

Ｔ６土層説明

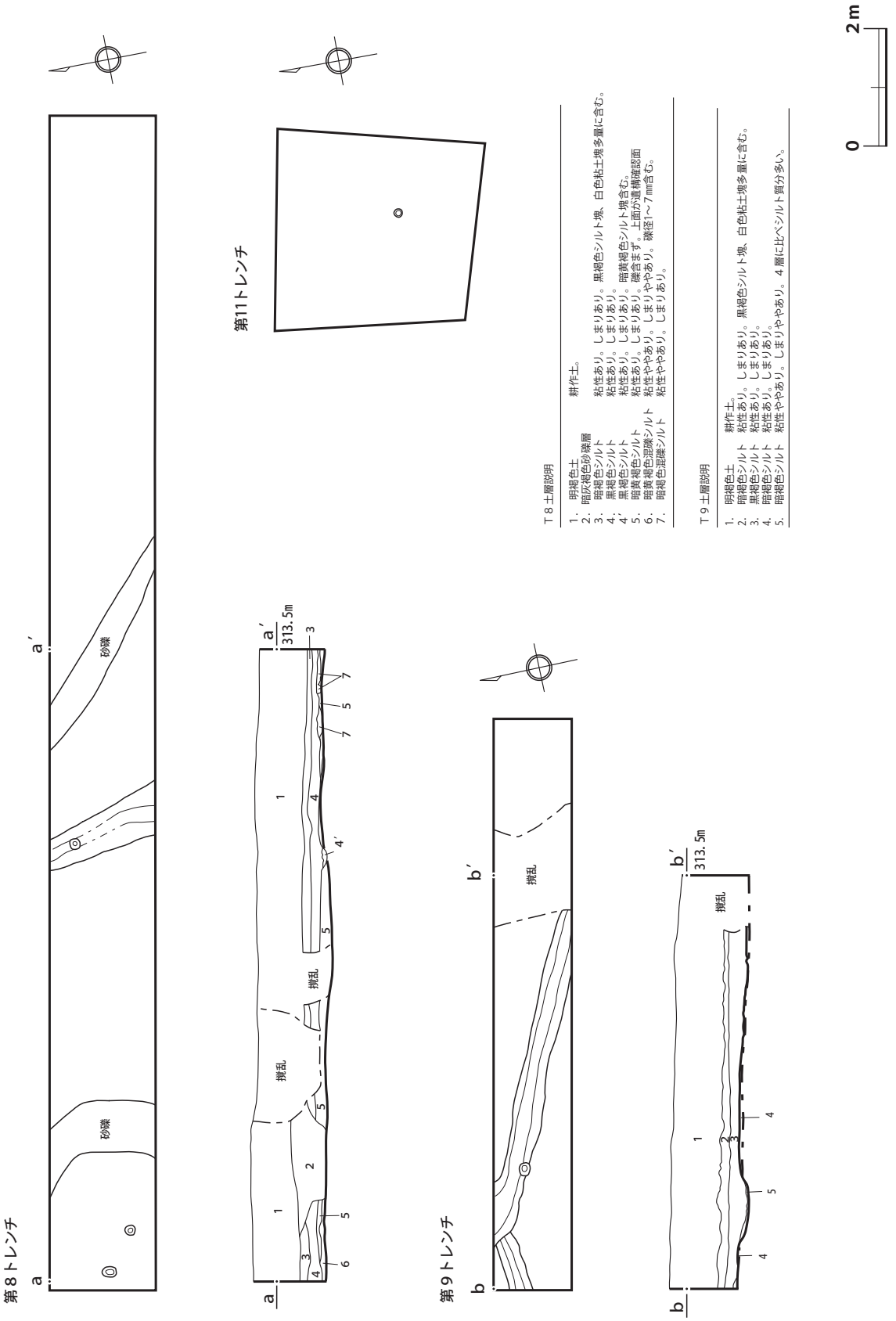
1．	暗黄灰褐色土	耕作土。
2．	黒褐色土	粘性あり。しまりあり。暗灰黄褐色シルトブロックが混じる。
3．	暗黄褐色シルト	しまりあり。上面が遺構確認面

Ｔ７土層説明

1．	暗灰褐色土	耕作土。
2．	暗灰色砂礫	礫主体
3．	暗灰色シルト	砂質分含む
4．	黒褐色シルト	粘性あり。しまりあり。
5．	暗黄褐色砂質シルト	

0　2m

第１‐３図　第１～７トレンチ遺構配置および断面図（1/80）



第１‐４図　第８・９・11 トレンチ平・断面図（1/100）

第２トレンチ遺構検出状況（東から）

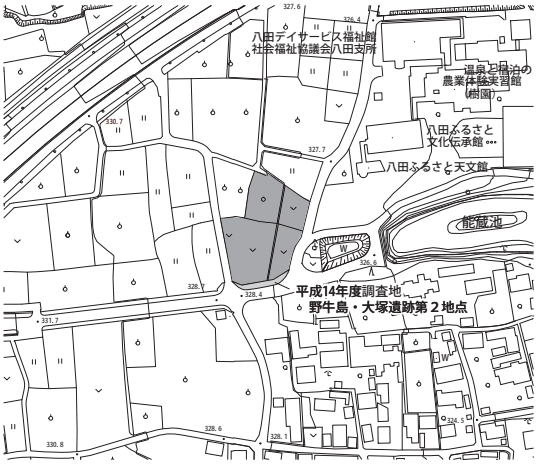
第２トレンチ遺構検出状況（東から）

第２トレンチ遺構検出状況（東から）

２．野牛島・石橋遺跡、野牛島・大塚遺跡

調査地　　野牛島 2695-1 他
調査原因　宅地造成（分譲住宅）
調査期間　平成 25 年７月 29 ～８月１日
対象／調査面積　2,756 ㎡／ 58.6 ㎡
調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査地点の東側には、御勅使川の伏流水が湧出した水を堰きとめて造られた能蔵池が隣接している。能蔵池は野牛島の水源だけでなく下流の村々を潤す重要な水源の一つであった。



第２－１図　調査地位置図（1/5,000）

調査地点の南側は、旧八田村道を拡幅する際に平成 14 年度八田村教育委員会によって発掘調査が実施されており、中世の溝状遺構や土坑、土坑墓などが検出されている。

本試掘調査は宅地造成に伴うものである。合計６箇所のトレンチを設定した。調査の結果すべてのトレンチから遺構が検出された。

発見された遺構と遺物

第１トレンチ

地表から約 80cm の地点から土坑６基、調査範囲外にのびる形状不明の遺構を検出した。遺構の覆土は炭化物や焼土粒が含まれている褐色土である。

第２トレンチ

地表から約 80cm の地点から土坑１基、溝状遺構１条を検出した。土坑の覆土は炭化物や焼土粒が多量に含まれていた。溝状遺構は検出された確認面での幅は 80 ～ 94cm を測る。

第３トレンチ

地表から約 85cm の地点から溝状遺構２条を検出した。ほぼ東西に走り、検出された確認面での幅はそれぞれ 92 ～ 124cm、68 ～ 74cm を測る。

第４トレンチ

地表から約 80cm の地点から土坑を２基検出した。しかし、地山層に石が多数含まれており、形状は不明瞭である。

第５トレンチ

地表から約 78cm の地点から土坑を２基検出した。第４トレンチ同様遺構の形状が不明瞭である。これは地山である明褐色土に 20cm 以下の石が多量に含まれており、一時河川の影響を受けたことが示唆される。

第６トレンチ

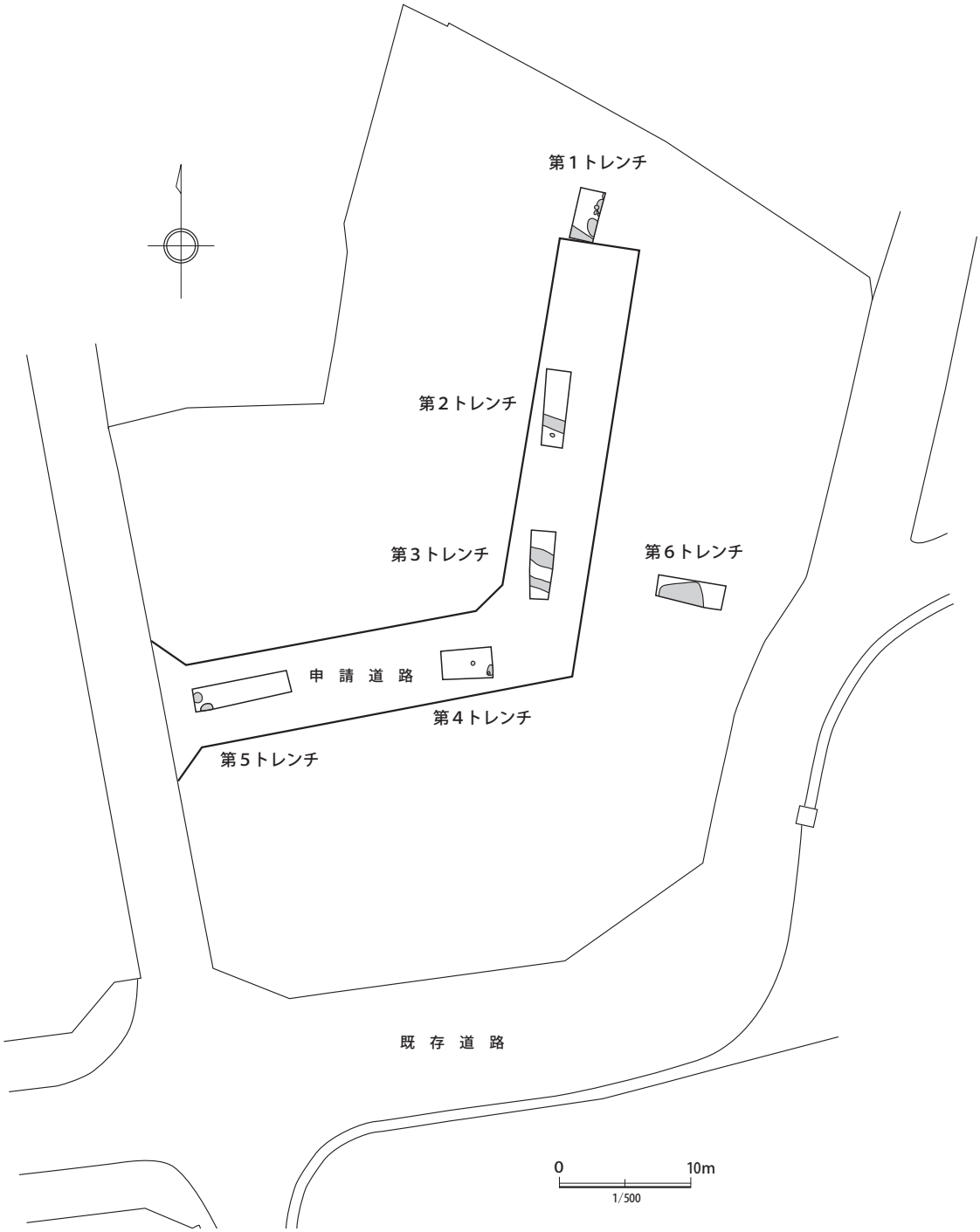
地表から約 75cm の地点から竪穴建物を１軒検出した。竪穴建物の覆土は他の遺構と異なり暗褐色土シルトが主体である。出土遺物および遺構の形状から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

総括

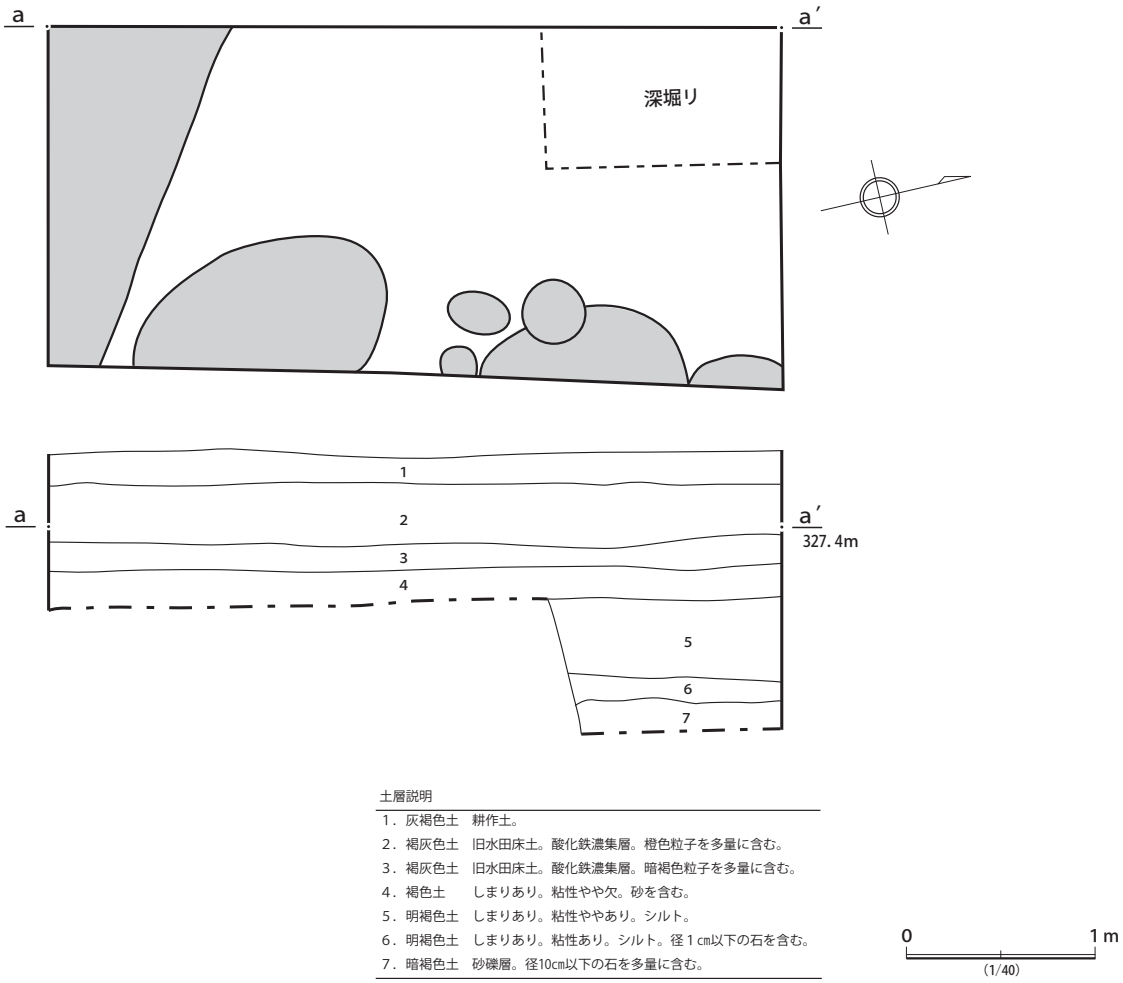
今回の試掘調査によって初めて能蔵池周辺で奈良・平安時代の竪穴建物が検出された。遺跡の立地する野牛島地区では、奈良・平安時代の集落の中心は大塚遺跡から野牛島・大塚遺跡、立石下遺跡、野牛島・西ノ久保遺跡付近であり、能蔵池に近接する地域では古代の竪穴建物は検出されていなかった。し

かし、第６トレンチで古代の竪穴建物が発見され、遺構は少ないながら古代において能蔵池西側にも集落が営まれていたことが明らかとなった。

調査後、市教育委員会と事業主体者との協議の結果、道路部分を除く工事区域で山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層を確保し、遺跡を埋設保存とすることで合意した。また明確な遺構が検出された道路部分については、両者で協定書を締結し、平成 25 年 10 月に事業主体者から依頼を受けた市教育委員会が本調査を実施した。



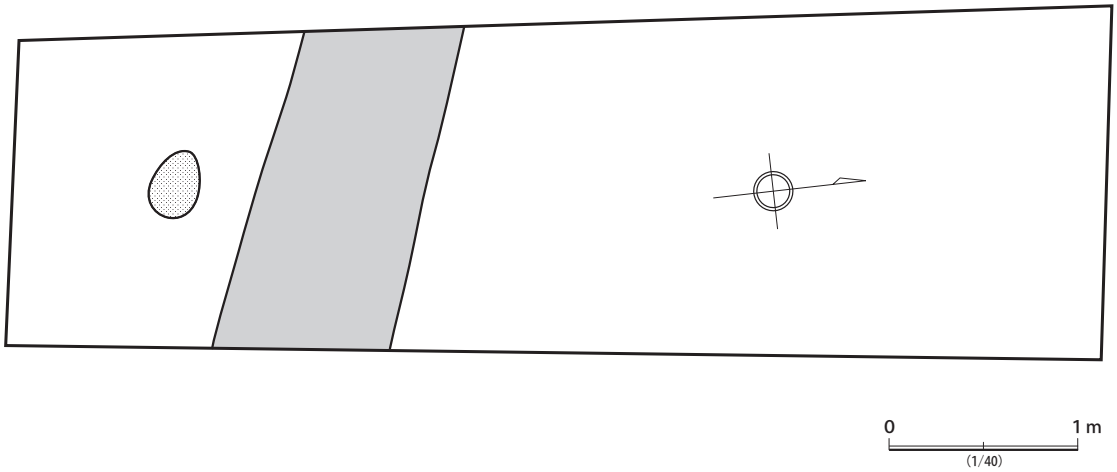
第２‐２図　トレンチ配置図（1/500）



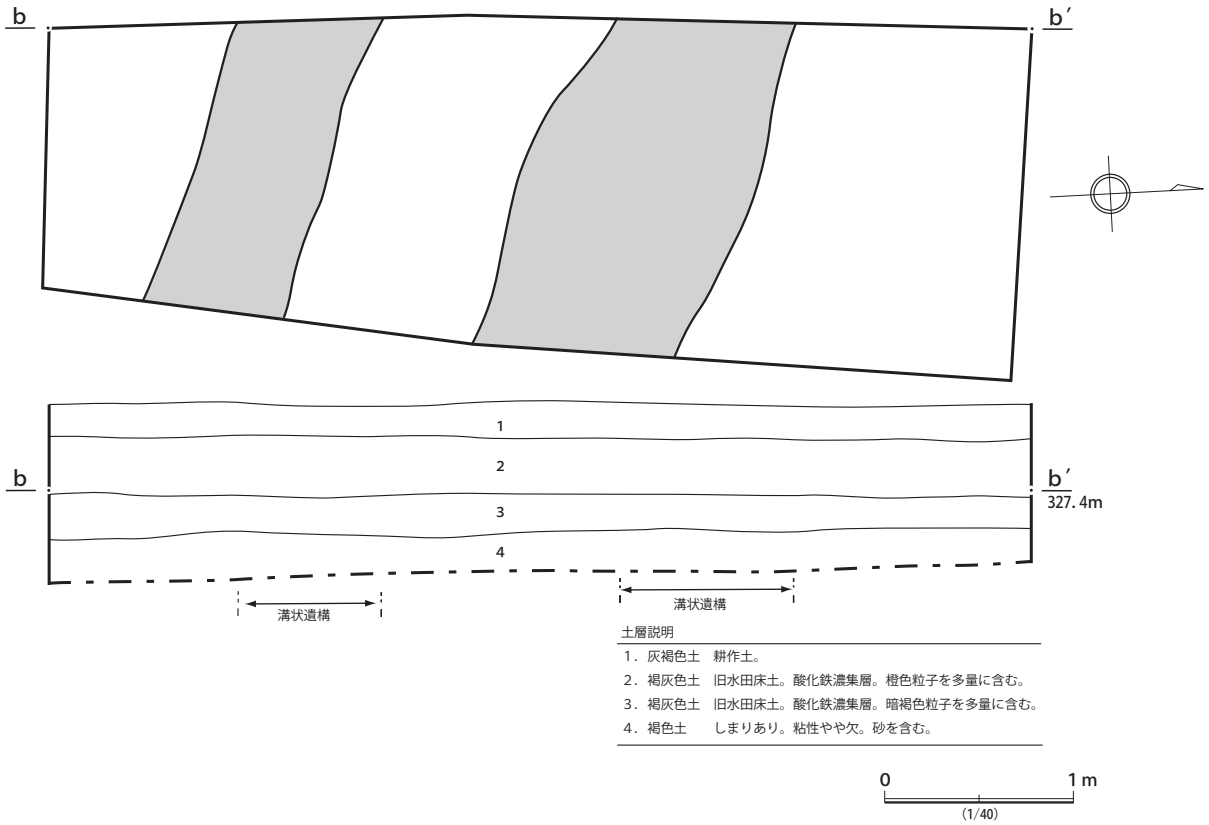
土層説明

1．灰褐色土　耕作土。
2．褐灰色土　旧水田床土。酸化鉄濃集層。橙色粒子を多量に含む。
3．褐灰色土　旧水田床土。酸化鉄濃集層。暗褐色粒子を多量に含む。
4．褐色土　　しまりあり。粘性やや欠。砂を含む。
5．明褐色土　しまりあり。粘性ややあり。シルト。
6．明褐色土　しまりあり。粘性あり。シルト。径１㎝以下の石を含む。
7．暗褐色土　砂礫層。径10㎝以下の石を多量に含む。

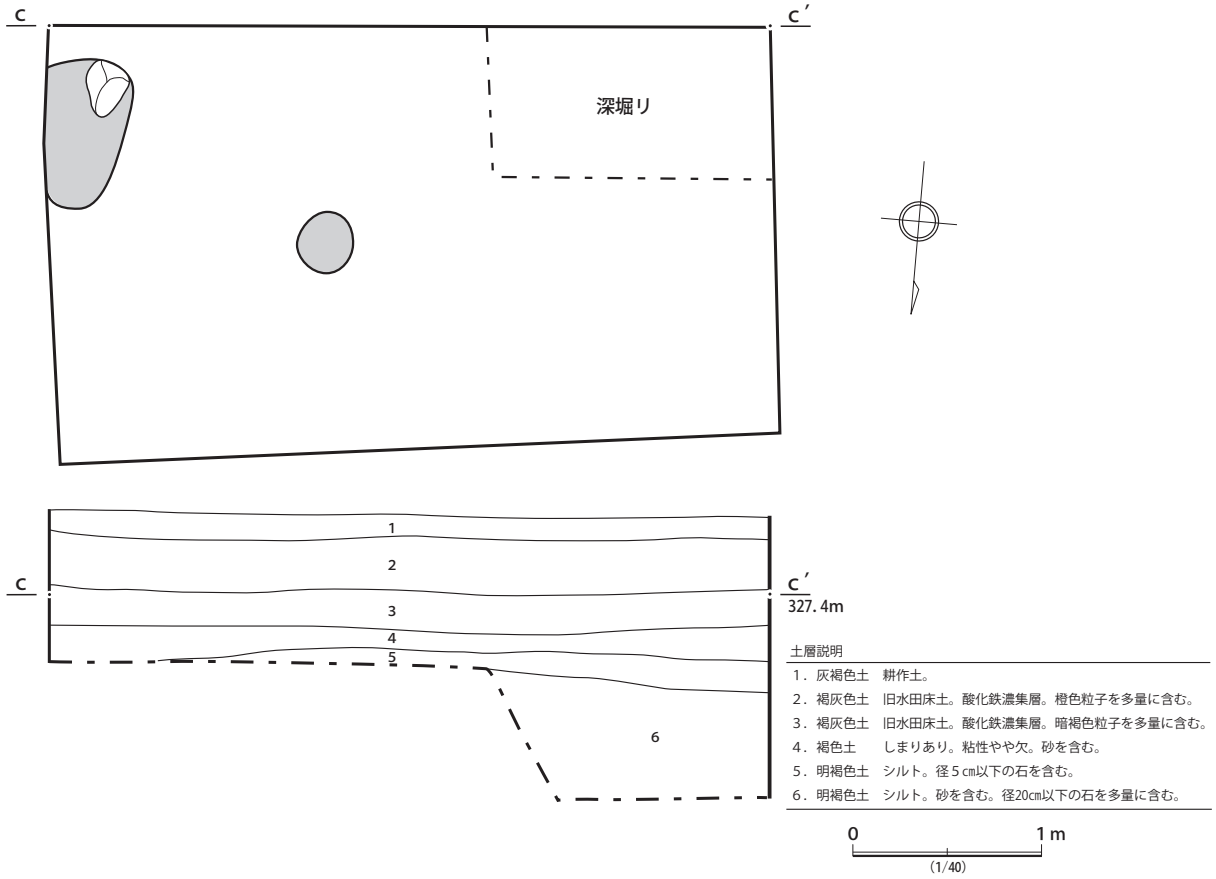
第２‐３図　第１トレンチ平・断面図（1/40）



第２‐４図　第２トレンチ平面図（1/40）

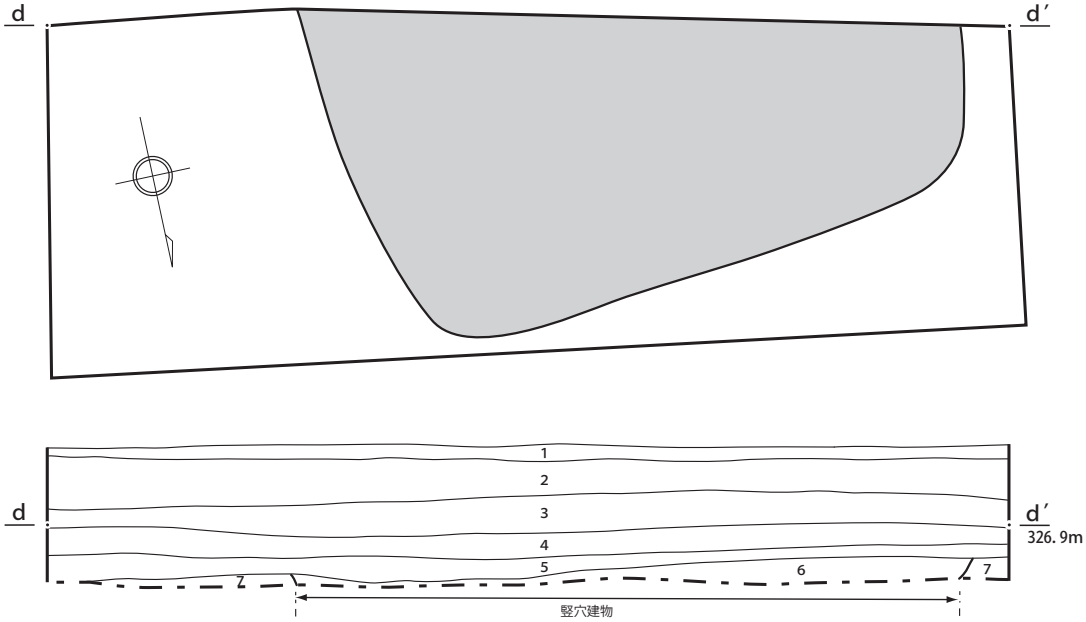


第２‐５図　第３トレンチ平・断面図（1/40）



第２‐６図　第４トレンチ平・断面図（1/40）

第２‐７図　第５トレンチ平面図（1/40）



土層説明

1．灰褐色土　耕作土。
2．褐灰色土　旧水田床土。酸化鉄濃集層。橙色粒子を多量に含む。
3．褐灰色土　旧水田床土。酸化鉄濃集層。暗褐色粒子を多量に含む。
4．褐色土　　しまりあり。粘性やや欠。砂を含む。
5．暗褐色土　しまりあり。粘性ややあり。シルト。
6．暗褐色土　しまりあり。粘性ややあり。シルト。炭化物を少量含む。竪穴建物覆土。
7．明褐色土　しまりあり。粘性ややあり。シルト。

0　1 m
(1/40)

第２‐８図　第６トレンチ平・断面図（1/40）

第１トレンチ全景（北から）

第１トレンチ全景（南から）

第２トレンチ全景（南から）

第２トレンチ遺構検出状況（東から）

第３トレンチ全景（北から）

第３トレンチ全景（南から）

第４トレンチ全景（西から）

第４トレンチ土坑検出状況

第４トレンチ調査風景

第５トレンチ全景（東から）

第５トレンチ土坑検出状況

第６トレンチ全景（東から）

第６トレンチ竪穴建物検出状況（北西から）

第６トレンチ調査風景

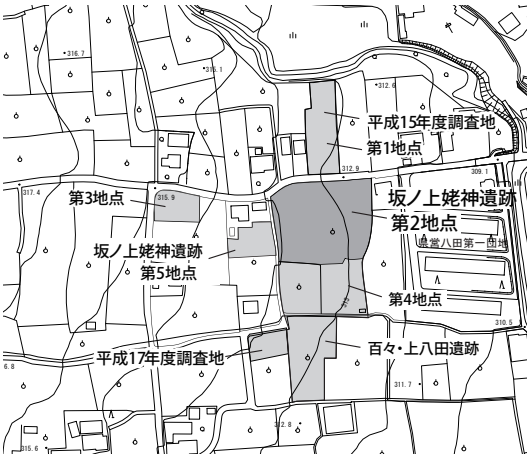
第６トレンチ調査風景

３．坂ノ上姥神遺跡第２地点

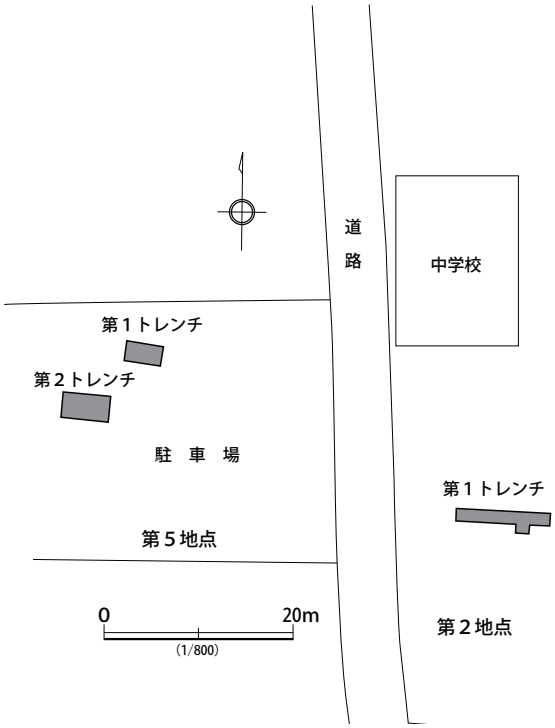
調査地　　徳永 1719-1
調査原因　私立小、中学校体育館建設
調査期間　平成 25 年９月 27 日
対象／調査面積　818.04 ㎡／ 15.5 ㎡
調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。調査区の北側は宅地造成工事に伴い、平成 15 年度に道路部分の発掘調査が行われ、奈良～平安時代初頭の集落跡が発見されている。小中学校敷地内では、学校・寮建設や道路拡幅に伴い、試掘調査および本調査が行われ、古墳時代後期の竪穴建物、奈良・平安時代の竪穴建物や溝状遺構、中世の溝状遺構などが検出されている。調査区の南東には武田家の家臣であった金丸氏の館跡（現在は曹洞宗寺院長盛院）が位置し、長盛院本堂の建替工事に伴う試掘調査により、時期は不明ながら基壇状の遺構が発見されている。さらに南側には徳永・御崎遺跡が広がり、集合住宅や個人住宅建設に伴う調査の結果から、古代の竪穴建物や古墳時代後期の竪穴建物、さらに下層から縄文時代後期の敷石住居址が検出されている。

本試掘調査は南アルプス子どもの村小中学校体育館建設に伴うものである。任意寸法のトレンチを１箇所設定した。なお、次項の調査原因である竪穴式住居復元は、同小中学校敷地内で進められた事業であるが、両工事の調査原因が異なるため、本報告書では別事業の調査として報告した。



第３‐１図　調査地位置図（1/5,000）

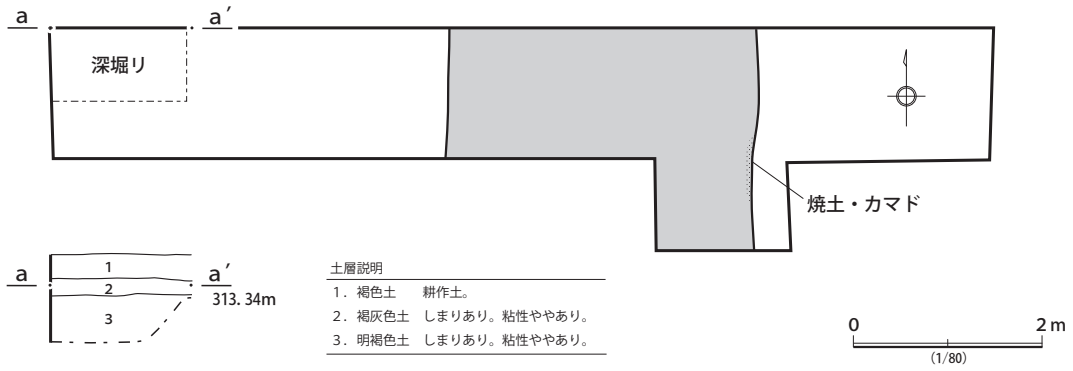


第３‐２図　トレンチ配置図（1/800）

発見された遺構と遺物

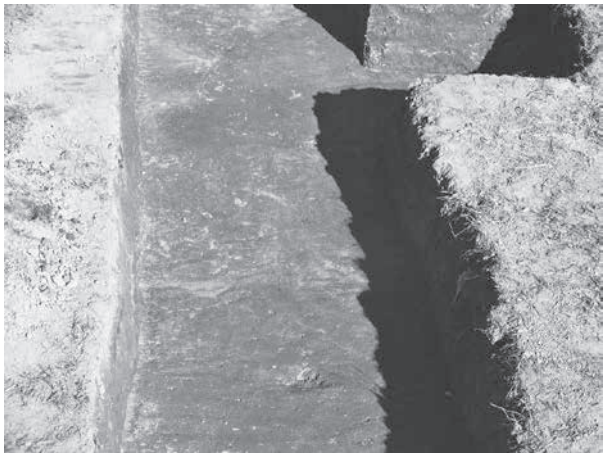
竪穴建物が１軒検出された。東西幅約 3.3 mを測る。竪穴建物東壁には焼土が集中したカマドが発見された。同小中学校敷地内では多数の古代の竪穴建物が検出されており、カマドの形態や覆土から考えると、この竪穴建物も奈良・平安時代の遺構である可能性が高い。

体育館建設区域は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、事業主体者と市教育委員会との協議の結果、現状保存とした。



第３‐３図　第１トレンチ平・断面図（1/80）

竪穴建物検出状況（東から）



竪穴建物検出状況（西から）

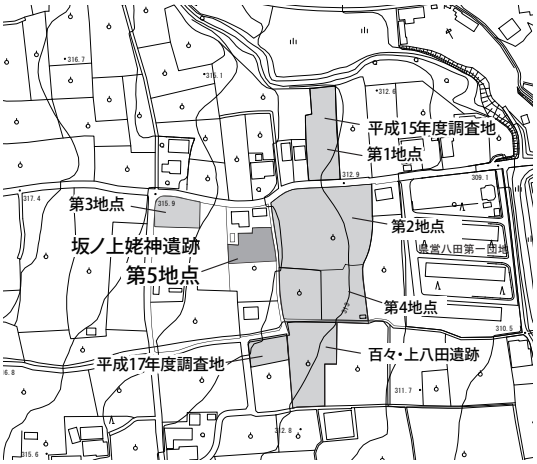
竪穴建物カマド

調査風景（西から）

４．坂ノ上姥神遺跡第５地点

調査地　　徳永 1722
調査原因　復元竪穴式住居
調査期間　平成 25 年 10 月８日
対象／調査面積　492 ㎡／ 22.17 ㎡
調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。前項で述べたように、調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。



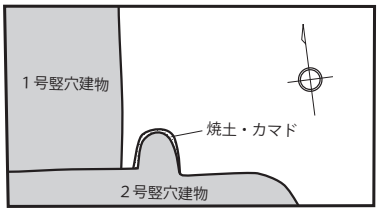
第４‐１図　調査地位置図（1/5,000）

本試掘調査は南アルプス子どもの村中学校の授業の一環として行われた竪穴式住居の復元に伴う試掘調査である。当初復元が予定されていた区域に第１トレンチを設定し調査を実施した（トレンチ配置図は第２地点参照）。その結果、２軒が切り合った竪穴建物が検出された。２号竪穴建物は１号竪穴建物を切って造られている。２号竪穴建物北壁には焼土が集中するカマドが発見された。遺構の保存を考え、隣接した地点に第２トレンチを設定し、調査を行った。その結果、トレンチ西側に竪穴建物と推定される遺構、トレンチ東端に竪穴建物かあるいは溝状遺構、中央に小土坑が６基検出された。

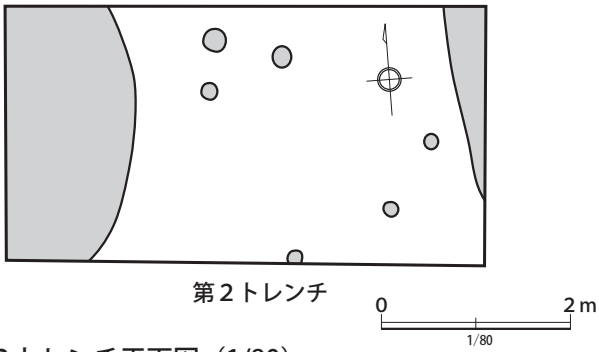
総括

今回の試掘調査によって、隣接した二つのトレンチで３軒もの竪穴建物が検出された。平成 15 年度に調査された本調査地点でも３軒が切りあった奈良・平安時代の竪穴建物が検出されている。こうした古代竪穴建物の切り合い関係は、前御勅使川右岸の野牛島地区ではほとんど発見されていない。御勅使川扇状地扇端部に位置する徳永・上八田地区では、崖下の沖積低地を利用しやすい崖際に古墳時代後期から継続して集落が営まれたことで、古代の遺構が数多く分布する状況が作り出されたと考えられる。本試掘調査およびこれまで行われてきた調査結果から、坂ノ上姥神遺跡は９世紀から本格化する御勅使川扇状地扇央部への牧開発と密接に関連した集落跡と考えられ、小規模であっても今後の調査成果をこれまでの調査結果に位置づけていくことが、扇状地開発を考える上で重要な作業といえるだろう。

調査地点の遺構確認面は地表から約 60cm を測り、堆積状況は坂ノ上姥神遺跡第２地点と同様である。復元する竪穴式住居の掘削深度は地表から約 30cm であり、規模も２ｍ × ２ｍと小規模である。そのため、事業主体者と市教育委員会との協議の結果、竪穴建物復元区域は竪穴建物上にならない第２トレンチ中央部分とし、小土坑は掘削深度が及ばないため、現状保存とした。



第１トレンチ

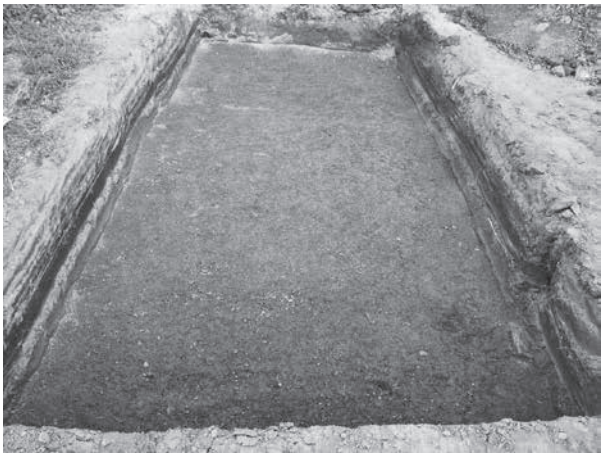


第２トレンチ

第４‐２図　第１・２トレンチ平面図（1/80）

第１トレンチ全景（西から）

第１トレンチ竪穴建物検出状況（北から）



第２トレンチ全景（西から）

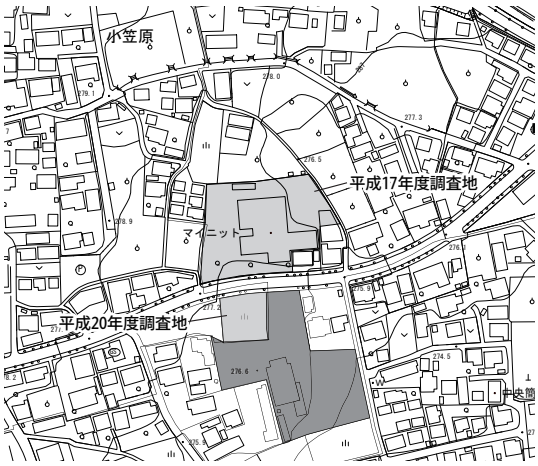
第２トレンチ遺構検出状況（南東から）

調査風景

調査風景

５．東出口遺跡

調査地　　下宮地 626-1 他
調査原因　宅地造成（分譲住宅）
調査期間　平成 25 年 10 月 21 ～ 29 日、
　　平成 26 年 1 月 10 ～ 18 日
対象／調査面積　4897.75 ㎡／ 46.56 ㎡



第５‐１図　調査地位置図（1/5,000）

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地の扇端部に形成された滝沢川扇状地の微高地上に立地する。

本地点の東約 300 ｍの地点には向第 1 遺跡があり、過去に奈良・平安時代の集落跡が検出され、県内で初の確認となった製塩に関する「焼塩土器」が出土していることでも知られる。

本遺跡では、当該調査区に北接する地点で平成 18 年度に本調査が行われ、10 世紀を中心に奈良・平安時代の竪穴建物が密度濃く検出されている。また、本調査区の西接地点でも開発に伴い試掘調査が実施され竪穴建物が検出されている。

本試掘調査は宅地分譲の開発計画に伴うもので、過去の調査実績から遺構が検出されるのは必至と考えられていた。道路計画範囲内で試掘坑を設定したところ、北側では遺構・遺物が検出されたが、南へ離れるに従ってその密度は薄くなっていった。

協議を重ね、遺構の分布密度が薄かった試掘溝を改めて範囲を拡張して調査を実施し、竪穴建物が分布していることを確認したところで記録保存のための発掘調査へと切り替えている。

発見された遺構と遺物

竪穴建物とみられる遺構を３基、その他土坑等を検出した。遺物は、第 1 トレンチで竪穴建物の埋土内から羽釜など多数の土師器片を検出している。南へ離れるほど出土量は減少し、包含層内の遺物の混入も見られなくなった。

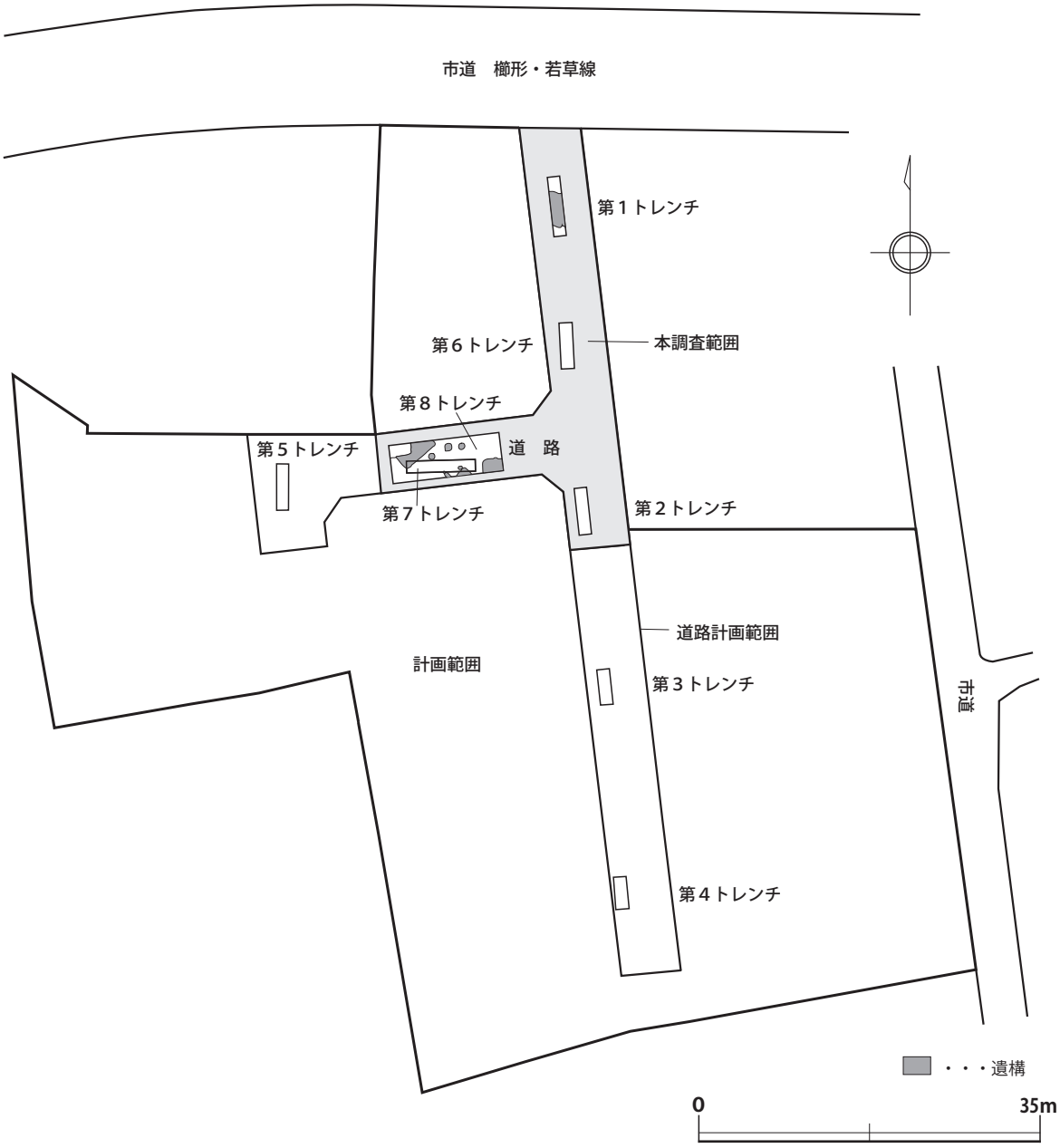
遺構・遺物ともにみられなくなる第 2 トレンチと第 3 トレンチの間までを本調査の範囲とした。本調査では 8 軒の竪穴建物を検出したが、密度は薄く、集落の中心は平成 18 年度に実施した調査区から当該調査区の第 1 トレンチ付近までの範囲とみられ、今回の調査範囲は集落の南限付近を調査したものとみられる。平成 25 年度に本調査を終え、平成 26 年度整理調査を実施している。

第１トレンチ遺構検出状況（南から）

第１トレンチ遺物出土状況（東から）

第１トレンチ遺構検出状況（南から）

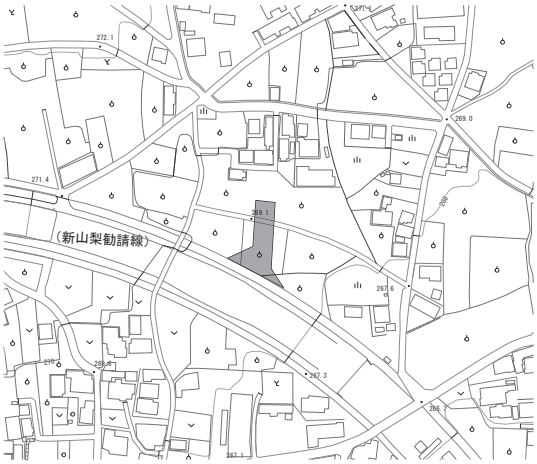
第１トレンチ遺物出土状況（東から）



第５‐２図　トレンチ配置図（1/700）

６．寺部村附第６遺跡

調査地　　寺部 1859-1 他
調査原因　市道若草１号線
調査期間　平成 26 年３月 26 ～ 28 日
対象／調査面積　650 ㎡／ 64.5 ㎡
調査概要



第６－１図　調査地位置図（1/5,000）

調査地点は、御勅使川扇状地の扇端部に位置する。寺部村附第６遺跡では、今回の調査区に南接する新山梨環状道路の建設などに伴って、これまで３次にわたる発掘調査が行なわれてきた。

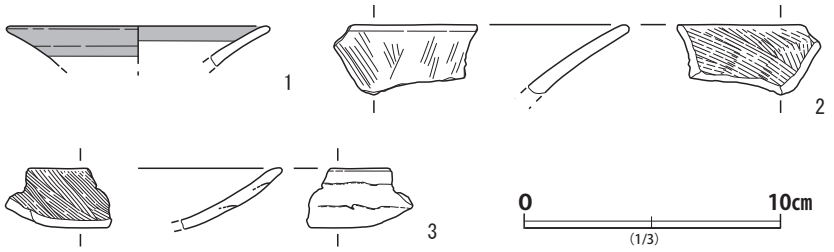
第Ⅰ地点では、古墳時代前期の竪穴住居址、古墳時代中期の低墳丘墓、平安時代前・後半の竪穴住居址など、第Ⅱ・第Ⅲ地点では、古墳時代前期の遺物とともに、平安時代後半～中世の竪穴住居址、溝状遺構、井戸址などがそれぞれ検出されている。これまでの調査によって、御勅使川扇状地扇端部の湧水線に沿って弧状に広汎且つ濃密に古墳時代前期の遺跡が分布することが改めて確認されると共に、御勅使川扇状地に古墳時代中期の低墳丘墓が分布することが明らかとなった。また更には、平安時代後半～中世にかけての遺構や遺物の存在から、近世村落寺部村（現在の南アルプス市寺部地区）の礎が、この頃形成されていった様子も明らかとなっている。

今回の調査は、現在の寺部集落を縦断し、新山梨環状道路に接続した市道若草１号線を、新山梨環状道路と交差させて、さらに北に延伸する計画に伴うもので、平成 26 年度施工予定部分 650 ㎡を対象に平成 26 年３月 26 日から同年３月 28 日にかけて実施した。調査予定地の現況は果樹園であり、トレンチの設定に際しては、縦横に巡らされた畑地灌漑施設（スプリンクラー）の配管に配慮する必要があった。そのため幅 1.5 mのトレンチを６本（１Ｔ～６Ｔ）設定したが、各トレンチの長さは調査区に現況に応じて任意とした。

調査の結果、１Ｔ・２Ｔ・４Ｔにおいて古墳時代前期及び平安時代後半の遺物包含層及び溝状遺構、土坑と考えられる遺構を検出した。一方で、３Ｔは表層から大きく撹乱されており、確認面において溝状の遺構を検出したものの、その覆土はこの撹乱土層と同質であることから、近代以降の所産と考えられた。５Ｔ・６Ｔでは、遺物包含層である基本層序４層が欠如し、遺構も認められず、土層のほとんどが御勅使川の洪水に由来するとみられる砂礫層に占められることが明らかとなった。

総括

今回の調査では、本遺跡の主要な構成時期である古墳時代前期、及び平安時代後半の所産と考えられる遺構・遺物が検出され、遺構が新山梨環状道路北側にも広がることが明らかとなった。一方で、今回の調査対象範囲北半が御勅使川の洪水流に由来すると見られる砂礫層に占められることも明らかとなっており、本遺跡の北限を確認することができたといえる。なお検出された遺構のうち、１Ｔ西半で検出された溝状遺構は、本遺跡第Ⅰ地点で検出されている最大幅 26 mにも及ぶ規模で検出された大規模な溝状遺構（６・11 号溝）の一部と考えられる。この溝状遺構は、第Ⅰ地点の調査においては、微高地を取り囲むようにＵ字形に屈曲して検出されたが､その性格は明らかにされていない｡今後本調査によって新たな知見が得られることが期待される。なお試掘調査終了後、各トレンチにおける所見に鑑み、１Ｔ～３Ｔ北側までの範囲で本調査が必要と判断され、この部分については、南アルプス市建設部道路整備課の負担により、平成 26 年７月 14 日から同年９月 12 日にかけて本調査が実施されている。

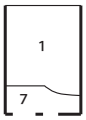


第６‐２図　出土遺物（1/3）

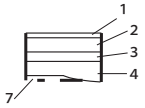
遺物番号	トレンチ	種別	法量（cm）			残存率	製作技法		胎土	含有物	色調　外／内	焼成	注記番号	備考
			口径	底径	器高		内側	外側						
1	１Ｔ	灰釉陶器	-11.5	-	-	破片	ロクロナデ	ロクロナデ	密	微細な白色粒子	灰オリーブ	良	村６Ⅳシクツ１Ｔ	
2	４Ｔ	土器	-	-	-	破片	ナナメハケ	ハケ後ナデ	密	砂粒	黄橙色	良	村６Ⅳシクツ４ＴＳＫ内	
3	４Ｔ	土器	-	-	-	破片	ナナメハケ	ナデ	やや密	砂粒、橙色粒子	橙色	良	村６Ⅳシクツ４ＴＳＫ内	

遺物観察表

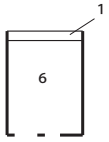
第３トレンチ断面図



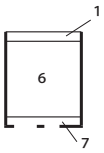
第４トレンチ断面図



第５トレンチ断面図

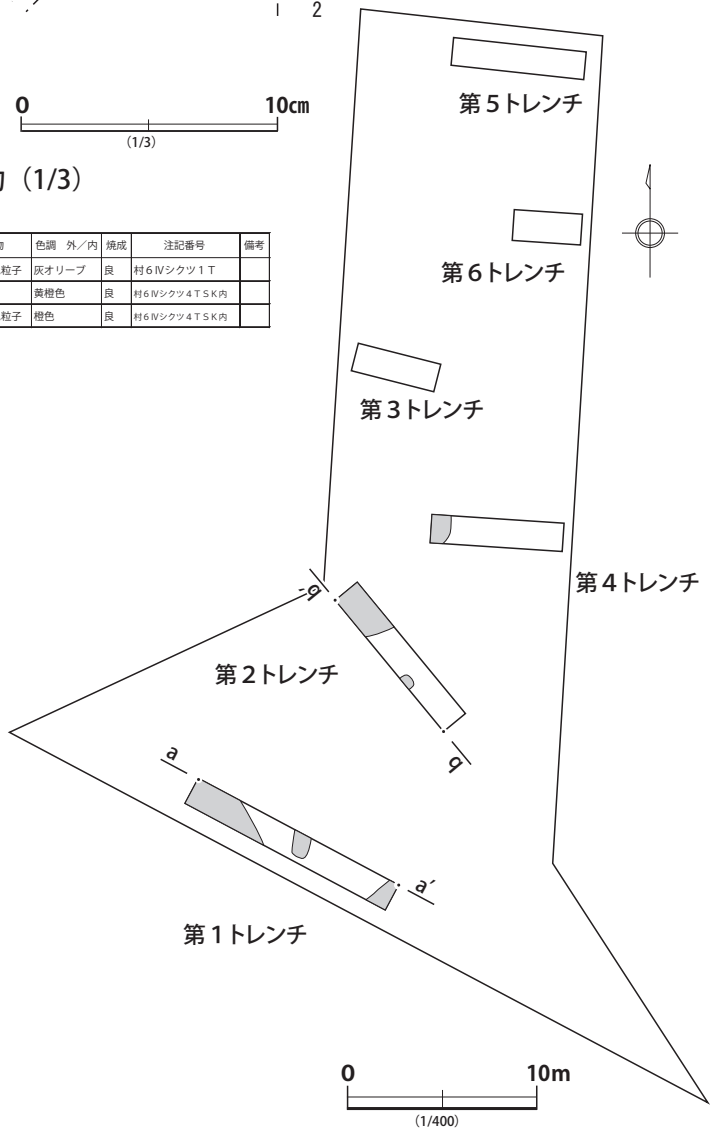


第６トレンチ断面図

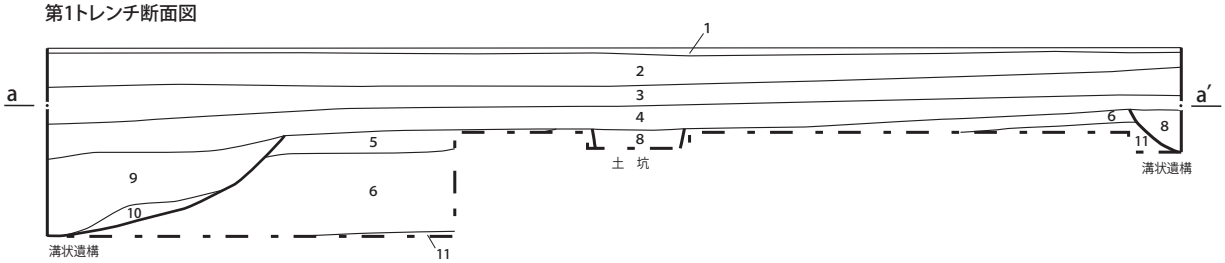


土層説明

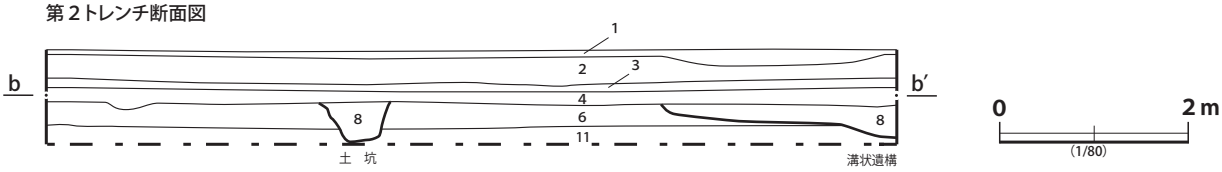
1. 表土および撹乱土層。
2. 淡褐色土　砂礫を含む。
3. 暗褐色土　砂礫を含む。
4. 黒褐色土　砂礫を含む。
5. 鈍い黄褐色土　粘性有あり。
6. 褐色土と砂礫の互層。
7. 黄褐色ローム質土。
8. 黒褐色土　砂礫を含む。
9. 黒灰色土　砂礫を含む。
10. 明褐色土　砂礫を多く含む。
11. 砂礫層。



第1トレンチ断面図



第２トレンチ断面図



第６‐３図　トレンチ配置図（1/400）およびトレンチ平・断面図（1/80）

第１トレンチ全景（西から）

第１トレンチ土層検出状況（南から）

第２トレンチ全景（西から）

第２トレンチ遺構検出状況（北から）

第３トレンチ全景（東から）

第３トレンチ土層検出状況（南から）

第４トレンチ全景（西から）

第４トレンチ遺構検出状況（南から）

第５トレンチ全景（西から）

第５トレンチ土層検出状況（南から）

第６トレンチ全景（西から）

第６トレンチ土層検出状況（南から）

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	へいせい 25 ねんどまいぞうぶんかざいしくつちょうさほうこくしょ
書　　名	平成 25 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
副　書　名	各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第 43 集
編　著　者　名	斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一
編　著　機　関	南アルプス市教育委員会
所　在　地	〒 400-0492　山梨県南アルプス市鮎沢 1212　TEL055-282-7269
発 行 年 月 日	2015 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °　′　″ （世界測地系）	東経 °　′　″ （世界測地系）	標高 （m）	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号						
あかづらびーいせき 赤面Ｂ遺跡	さわのぼり 沢登 743	19208	KG-12	35°　37′ 38″	138°　28′ 12″	314	2013 年 7 月 3 日～2014 年 3 月 4 日 / 2014 年 4 月 23 日	142.27/ 11.14	公会堂 / 防火水槽
やこしま・いしばしいせき 野牛島・石橋遺跡、 やこしま・おおつかいせき 野牛島・大塚遺跡	やこしま 野牛島 2695-1 他	19208	HT-18 HT-19	35°　40′ 07″	138°　28′ 41″	328	2013 年 7 月 29 ～ 8 月 1 日	58.6	宅地造成（分譲住宅）
さかのうえうばがみいせき 坂ノ上姥神遺跡 だい2ちてん 第 2 地点	とくなが 徳永 1719-1	19208	HT-40	35°　39′ 15″	138°　29′ 11″	314	2013 年 9 月 27 日	15.5	私立小、中学校体育館建設
さかのうえうばがみいせき 坂ノ上姥神遺跡 だい5ちてん 第 5 地点	とくなが 徳永 1722	19208	HT-40	35°　39′ 15″	138°　29′ 10″	314	2013 年 10 月 8 日	22.17	復元竪穴式住居
ひがしでぐちいせき 東出口遺跡	しもみやじ 下宮地 626-1 他	19208	KG-139	35°　36′ 18″	138°　28′ 11″	276	2013 年 10 月 21 日 ～ 29 日、2014 年 1 月 10 ～ 18 日	46.56	宅地造成（分譲住宅）
てらべむらつきだい6いせき 寺部村附第 6 遺跡	てらべ 寺部 1859-1 他	19208	WK-31	35°　36′ 50″	138°　29′ 29″	268	2014 年 3 月 26 ～ 28 日	64.5	市道若草 1 号線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
赤面Ｂ遺跡	散布地	中世・近世	溝状遺構、土坑	土師質土器	
野牛島・石橋遺跡、 野牛島・大塚遺跡	散布地、集落	奈良・平安～中世	竪穴建物、溝状遺構、土坑	かわらけ、鍋	
坂ノ上姥神遺跡 第 2 地点	散布地	奈良・平安	竪穴建物	土師器	
坂ノ上姥神遺跡 第 5 地点	散布地	奈良・平安	竪穴建物、溝状遺構、土坑	土師器、灰釉陶器	
東出口遺跡	散布地	平安	竪穴建物、土坑	羽釜、土師器	
寺部村附第 6 遺跡	散布地	古墳前期、平安後期	溝状遺構、土坑	土師器、灰釉陶器	

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第 43 集
山梨県南アルプス市
平成 25 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
発行日　2015 年 3 月 31 日
発行者　南アルプス市教育委員会
〒 400-0492
山梨県南アルプス市鮎沢 1212
TEL　055 - 282 - 7269
印刷所　株式会社エンドレス
〒 405 - 0014
山梨県山梨市上石森 123
TEL　0553 - 22 - 4574